

氏 名	森田 照美
学 位 の 種 類	博士（医学）
学 位 記 番 号	甲第 394 号
学位授与年月日	平成 25 年 3 月 21 日
審 査 委 員	主査 教授 堀口 淳
	副査 教授 奥西 秀樹
	副査 臨床教授 藤代 浩史

論文審査の結果の要旨

胃食道逆流症の約 30% は薬物治療抵抗性であり、六君子湯が用いられる場合があるが、その作用機序は不明である。そこで申請者は健常成人を対象に、二重盲検クロスオーバー法を用いて検討した。

すなわち、六君子湯またはプラセボ 2.5g を 1 日 3 回毎食前に 7 日間経口投与して、その最終日に食道運動機能検査を実施した。次いで、7 日間の休薬インターバルを設けた後に、他方の投与処置を前者と同様 7 日間に亘って行い、その最終日に同様の検査を実施した。食道運動機能は多チャンネル食道内圧モニタリングを用いて、下部食道括約筋部圧および食道蠕動圧を測定して評価した。さらに申請者は、同様の対象に高カロリー食を負荷し、多チャンネルインピーダンス pH モニタリング法を用いて、3 時間後の胃食道逆流回数と食道内 pH4 未満%時間を測定した。

その結果、六君子湯の投与によって、臥位での下部食道括約筋部圧は統計学的に有意に上昇したが、座位での下部食道括約筋部圧や食道蠕動収縮圧、食後の胃食道逆流回数および食道内 pH4 未満%時間には有意な差は認められなかった。

以上の結果から申請者は、六君子湯は食道運動機能亢進作用と食後の胃食道逆流防止作用を有しないと結論し、本薬の作用は食道の酸に対する感受性の変化を介するものである可能性を指摘した。